

Q

この数字は
何でしょうか？



めざせ！ こども 1000人アンケート!!!

第3回を迎えた今回の『めざせ！こども1000人アンケート!!!』。3124人の子どもたちから率直な声を聞くことができました。

それに対して、大人からも170通近い感想・メッセージが寄せられ、地域の方々の子どもに対する関心の高さがうかがえました。

区内では子どものための活動が数多く展開され、家庭・学校とともに安心して過ごせる居場所が作りだされています。

子どもたちがコロナで困ったこと・見つけたこと・大人にして欲しいことなど、アンケートに込められた“みんなのきもち”が実を結ぶように、一人でも多くの方が地域の子どもを支える支援の輪に参加されることを願っています。

大田区・大田区社会福祉協議会

A

『めざせ！こども
1000人アンケート!!!』
で回答してくれた
子ども達の人数。

子どもからの回答

※みんなの「生」の声が届くよう、あえて手を加えずに掲載しています。

アンケートは、区内の小学校・中学校・高等学校・児童館・活動団体を通じて実施しました。今回は大田社協のホームページからも参加できるようにしたこともあり、前回の約 2.5 倍にも及ぶたくさんの声を集めることができました。ここに、その一部をご紹介します。



全コメントはこちらからご覧いただけます
※「生」の声が届くようあえて手を加えないで入力しています。

質問 1

「コロナでお家にいる時に困ったことは何ですか」

勉強で分からない所が聞けないこと (13 歳)

パパとママがストレスがたまっておこったからこまった (7 歳)

運動することが減って体力がおちた (15 歳)

ごはんにごまった (13 歳)

学校に行けなくなり、友達とも会えない日々が続く気が下がった (18 歳)

生活習慣が乱れた (16 歳)



「体力が落ちた」「太った」という意見が多く見られました。また、「家族とケンカが増えた」という意見も多く、ストレスが溜まっていたことがうかがえます。

質問 3

「将来どんな大人になりたいですか」

ちゅうかやさんのてんちょうになりたいです (6 歳)

りくじょうせんしゅ・バスケせんしゅ・ピアニスト (9 歳)

やさしくて友達のことをずっと大切にできる人 (13 歳)

けんちく家で 1 級をとって広い家にすむ大人 (11 歳)

沢山の人を幸せにできるような職業に就きたい (16 歳)



低学年と高学年は具体的な職業を挙げる傾向が多く、中高生になると大人像をしっかりとイメージしている傾向が見られました。

質問 2

「コロナでお家にいる時にみつけたステキなこと」

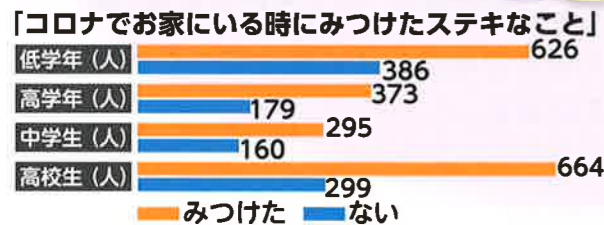
アニメをいっぱいみれたこと。本をいっぱい読めたこと (11 歳)

お父さんとお母さんが家で学校をひらいてくれた (8 歳)

家族の時間が増えて以前よりも笑顔が少しですが増えた気がします。 (17 歳)

料理をするようになってレポートが増えたこと (14 歳)

お金をつかうことがないからめっちゃたまる (15 歳)



ストレスを感じながらも、「家族と過ごす時間が増えた」「会話する時間が増えた」という声が多かったことが印象的です。

質問 4

「大人にいいたいこと、して欲しいことはありますか」

だいすきやさしくしてくれるからいっしょにあそんでほしい (7 歳)

子どもがあれだけコロナの予防しているのに、大人がなぜ 6~7 人で遊んだり夜ふざけたりするのが分らん。大人がもっと気を付けろよ (12 歳)

硬い考え方を崩してください。私達には選べる道が沢山用意されているのに (17 歳)

自分が見た事だけで人を決めつけないでほしい (11 歳)

小さい子どもの手本となる行動をしてほしい (14 歳)



全体的に「大人にいいたいこと・して欲しいこと」は少ないながらも、親・学校・行政・国に対する様々な意見がありました。

めざせ！子ども1000人アンケート!!!
3124人の声を読んで

大人からの感想・子どもたちへのメッセージ

※それぞれの声がすべて届くよう、あえて手を加えずに掲載しています。



感想：年齢が上がると共に、大人に対するシビアな意見に心が痛くなりました。特にお金の事。貧困に強いメッセージがあったことが今後早急にとり組んでほしい問題と感じました。

メッセージ：こんな事言っても、とか考えず、子どもだからこそ声に出して自分の考え思いを伝えるべきです。諦めずに大田区を社会を明るくして行ってほしいです。(中高生ひろば職員)

感想：子どもの素直な思いがたくさんあって大人として感動したり反省したりでした。高学年になるにつれ大人に対して矛盾を感じている様子がわかり、改めて子どもに恥ずかしくない行動を心がけなくてはと思いました。人や周囲に対して感謝の気持ちを伝えている子どもも多く、うれしかったです。

メッセージ：大人もたくさんまちがえることがあります。でも、まちがえた時は素直にそれを認めあやまることのできる大人でありたいと思いました。また、子どもの話を真剣に聞く大人もたくさんいます。悩んだ時、困った時はあきらめずに相談してほしいと思います。(児童館職員)

感想：今まで当たりまえだったことが、コロナの影響でできないことが増え、“当たりまえ”のことが“尊い”ことだと考えるきっかけができたのかなと思いました。感謝の気持ちが増えているなと感じました。

メッセージ：今できないことなく、できることに目を向けて色々なことにチャレンジしたり、興味を持ってほしいです。小さなことでもステキなことやすばらしいことはたくさんあるはず。1日1日を大切に生活してください。(児童館職員)

感想：新型コロナウイルス感染症流行の中で子どもたちが寂しさやストレスを感じながら制限された日々を過ごしていたこと、経験できたはずのことができなくなってしまった悔しさが伝わってきました。その中でも小さな良いこと、心温まることを見つけながら頑張っていることに改めて気付くことができました。

メッセージ：新型コロナウイルス感染症が流行する中で、皆さんの協力和頑張りがありとうございませう。世界的に苦しい状況を経験したみなさんは強くたくましい大人になってくれると信じています。苦しい中にも幸せはきっとあります！あと少し、一緒に頑張りましょう。

(社会福祉法人 施設職員)



感想：家族のよさに気づけたり、ひとつひとつのコメントが素敵でした。

メッセージ：コロナ前の日常がいかに大事だったかを感じて欲しいと思います。(児童館職員)



感想：コロナ禍の中、おもしろいことをすすんで探したり、発見したりしているのが、いじらしくも感心しました。家にいるとつまらない、おもしろいことがみつからない人を満足させるような環境づくりを目指したい。

メッセージ：大人にとっても子どもにとっても大変な1年でしたが、大人はいつも子どものことを気にかけています。何かあったら、先生や親、身近な人にいつでもなんでも聞いてください。さっさといいアドバイスしてくれますよ。(おおたっ子ひろば職員)

子どものアンケート回答を読んだ大人から、たくさんのご意見が寄せられました。区内の学校・児童館・各種活動団体など、子どもを守り、支える方々の親身な気持ちが伝わってきます。3124人の子どもたちの声は、確実に大人たちに届いています。



全コメントはこちらからご覧いただけます
※[生]の声が届くようあえて手を加えずに掲載しています。



感想：大人へ・大人が信じられない・子供を開放して。というのが気になりました。大人が信じてもらえるよう、しっかりと関係性や社会を作らないと思いました。子供の素直な意見が見れて、聞けて、嬉しいです。引き続きこの試みをよろしくお願ひいたします。

メッセージ：色々なことがあるけど、これからも意見があれば素直に大人に伝えて欲しい。声を上げればそれを聞いてくれる大人は必ずいるから、何かあれば必ず声をあげて欲しい。一人で悩まないで周りの誰かに相談して。(区議会議員)

感想：休校・自粛と大人も不安な中、子どもたちは小さな喜びを見つけて、心を癒していたことに感心しました。低学年はもっと親との関わりを求めていること、中高生は大人社会の盾へ鋭い目を向けており、恥ずかしくない社会を作る責任を感じます。

メッセージ：さびしい気持ちや困ったことは、だれかに相談してね。きっと助けてくれる人に出会えます。私もできることを考えます。

メッセージ：コロナでうっ屈している中、よいとくみと思ひました。これが単なるガス抜きで終わるのか、子どもたちの目に見れる施策を実現するのか、大人は応える責任があると思ひます。(児童館職員)

感想：子どもの素直な言葉に、笑ったり困ったりしました。小学校低学年の言葉はほほえましい内容が多かったですが、中・高生の意見はするどいことも多くて今の社会の不満をどこにぶつけたらよいか分からない不安をたくさん感じました。

メッセージ：新型コロナウイルス感染症で、未知のものや戦わなくてはいけない状況で、3月～5月は学校もなく家に居なくてはいけない中で将来乗り越えられた後の社会に明るく生きることを考えてほしいです。(大人も子どもも一緒に乗り越えましょう！)(中高生ひろば職員)



感想：しっかりした考えを持つ高校生がいることに心が救われます。

メッセージ：平和で希望ある世の中を共に築いていきましょう。(高校教諭)



感想：子どもたちからの正直な言葉が伝わった。そう思わせてしまっている状況が悲しい。

メッセージ：大人への信用をなくしてしまつてごめんさい。月並ですが、全員が君達の嫌いな大人ではないので、大人というだけで心をとぎさないで下さい。(児童館職員)

～ 広げよう！子どもを育む支援の輪～

地域とつくる支援の輪プロジェクトに取り組んでいる 活動団体の紹介



学習支援 自主学習支援会「ベストキッズ」

活動内容 「誰もが互いの違いを認め合い、共に生きて行く」地域社会をつくるために、経済的理由に関わらず基礎学力不足の子どもたちへの学習支援をしています。また、地域に根ざした学習サポーターの募集・養成も行い、「地域で地域の子どものみる」という意識で子ども支援のネットワークづくりにも取り組んでいます。

メッセージ 一人じゃないよ！いっしょにいるよ！



代表者：河合 良治
問合せ先：☎080-3520-4689
E-mail：go.bestkids@gmail.com



プレーパーク もっと遊べる五丁目公園の会

活動内容 大田区にも、子どもたちが自由に生き生きと遊べる冒険遊び場「プレーパーク」があればと願って活動しています。どろんこ遊び、水遊び、ロープ遊び、木工作、ベーゴマ・コマ回し、おやつ作りなど、普通の公園ではできない四季折々の遊びをしています。大人がほんの少し関わることで子どもの遊びを刺激して、思いっきり遊ぶ中で人としての関係を育んでもらえることを願っています。

代表者：松田 和子
問合せ先：☎3775-3791(事務局)

メッセージ 子どもともっと遊びをつたえたい



読み聞かせ NPO法人 読み聞かせネットワーク ヒッポ

活動内容 子どもの心を豊かに形成する本の読み聞かせをはじめ、手遊び、わらべ歌、紙芝居などの企画も定期的に行っています。また、読み聞かせを家庭・地域・学校に継続して広めていくためのボランティア育成や、学校図書館を整備・装飾・展示にも取り組んでいます。

メッセージ 皆さんは本を読みますか！
本は、辛い時、悲しい時にこそ、あなたに生きるチカラをくれます！
ぜひ、カッコイイ大人を目指してください！応援してます！



副理事長：近藤 真奈美
問合せ先：☎3775-1861(事務局)
E-mail：hipohipo_land@yahoo.co.jp

活動団体のつながりを深め、地域全体で子どもを見守ります

区では、地域で活動する団体同士のつながりを深めるため、活動が広く認知されるための手法や地域に必要な活動について考えています。また、次世代を担う子どもたちが地域と関われるよう、子ども自身が積極的に参画できる活動も取り入れています。

地域活動を通じて子どもと関わることにより、子どもが課題を抱えたときの話し相手や相談相手になったり、必要な支援につなげることができます。区は保護者や先生とは違う立場から子どもを見守り、地域全体で包み込む体制づくりに力を入れています。



一時預かり 矢口子育て支援「ぷーさんの家」

活動内容 子育てに関わる人々に対して、子どもが保育所に入所できない場合や保護者の急用時、夜間に子どもを預かっています。また、必要に応じて保護者への支援も行い、地域の子どもたちが健康で明るくのびのびと成長できる環境をつくっています。保護者や行政への働き方を通して、子育てをしやすい社会の実現に寄与することが私たちの目的です。

メッセージ 大人はいつもこれからの子どもたちことを考えながら一生懸命働いています。それぞれの夢にむかって勉強してください。



代表者：小野 昌子
問合せ先：☎3758-1728



子ども食堂 きまぐれ八百屋 だんだん

活動内容 何らかの事情で十分な夕食が摂れない子どもたちや孤食の子どもたち、その他孤食の高齢者および若者への食事提供と交流の場づくりを行っています。食事づくりのスタッフ（ボランティア）も活躍の場としての活動しています。

代表者：近藤 博子
問合せ先：☎090-8941-3458
E-mail：kimagure.dandan@gmail.com

メッセージ あなたを応援したい人は、必ずいるよ！失敗を恐れずにやってみてね。悩み事があったら、「だんだん」において、話を聞きます。そして、一緒に考えます。



子どもの居場所づくり 社会福祉法人 大田区社会福祉協議会

活動内容 大田社協では子どもたちが未来を切り拓く力を身につけることを目的に、家庭や学校以外で多様な体験ができる場として「学習」「食事」「体験」をベースとした子どもの居場所づくり事業「わくわくホーム」と「のびのび」を実施しています。

メッセージ 自分がなりたいと思える大人になってください。応援しています！！



おおた地域共生ボランティアセンター
問合せ先：☎3736-2266
E-mail：kyousei@ota-shakyo.jp



子どもたちを守るため、地域の活動団体を支援する輪に参加してみませんか？

フードドライブ（食料寄付）、ボランティア、基金への参加など、あなたが出来ることから参加してみませんか。
地域の活動団体を支援する小さな一歩が、大きな未来を育みます。
次代を担う子どもたちのために、皆さまのご協力をお願いいたします。



学習支援



プレーパーク



読み聞かせ



一時預かり



子ども食堂



「子どもの居場所づくり」事業

大田区子ども生活応援基金

皆さまのあたたかいご支援お待ちしております

子どもの生活応援に資する地域活動への支援等に活用させていただきます。

寄附をいただける際には、大田区ホームページから申し込みをいただくか、下記の寄附申込・問合せまでご連絡ください。いずれも手数料はかかりません。

寄附の方法

- 1 区役所窓口での現金による納付
- 2 金融機関での区専用納付書（現金）による納付
- 3 ゆうちょ銀行・郵便局の窓口・ATM での振替払込書（払込取扱票）による納付
- 4 インターネットによるクレジットカード決済

※詳細は区のホームページをご参照ください。

寄附申込・問合せ先

大田区子ども生活応援基金事務局 大田区福祉部福祉管理課調整担当
〒144-8621 大田区蒲田五丁目 13 番 14 号
電話 03-5744-1244 FAX 03-5744-1520
E-mail : kodomo-ouen@city.ota.tokyo.jp



大田区ホームページ



©大田区

～地域とつくる支援の輪プロジェクト～

子どもの貧困が社会問題になっている今、大田区は子どもを見守る体制づくりに向けて「地域とつくる支援の輪プロジェクト」に取り組んでいます。

これらの活動や
このパンフレットに関する
お問合せは

大田区社会福祉協議会
おおた地域共生ボランティアセンター
☎3736-2266 E-mail: kyousei@ota-shakyo.jp